

# The Hop Step Times

January 2025

## The Introduction of GROUP PRESENTATION (花ボールの作成及び選考会)

グループプレゼンとは、グループワークを通して自身の思考の癖を見つけ、他者からのフィードバックにより自己理解を深めるプログラムである。

10月から12月のテーマは「2025年度のカレンダー&花ボールの作成」であった。

まずは先に納品する花ボールの作成に向けて両チームともスタートした。

なお、花ボールとは折り紙を用いた球状のオブジェクトである。作品は2チーム(A、Bチーム)に分かれ各グループ内で任命されたリーダーの下、作成する。選考会にて各チームがプレゼンを行い、勝利チームの作品が採用されるルールである。

勝利チームの作品は11月26日に開催される「カフェ企画」(右記事参照)にてほっぷ一般コース部門の展示作品として出展される。但し出来栄によってはどちらのチームの作品も出展されないというルールもあった。

花ボールのテーマは「四季」であり、春夏秋冬の季節ごとに1作品の計4作品を作成する必要があった。作品を表現するうえでのコンセプトおよび作品のモチーフについて上司役スタッフ(以下、上司)に説明し、まずは了承を得る。了承が得られた後に作品を作るという流れで作業が進められた。

コンセプトを決める際はそのメッセージ性を作品で表現する必要があった。また、作品を表現する技量も求められるため、なかなか上司の了承が得られず、リーダーは修正しては説明するを

何度も繰り返し苦労する様子が見られた。作品に関しては、作り方が分かっていても期限内に完成させられる技量とのバランスを考えつつ、決める必要があるなどの苦労もあった。

リーダー以外のメンバーは、花ボールの作成がほぼ経験したことのない作業ということもあり、戸惑いながらも参考となる本やネットの情報を手掛かりに、練習を繰り返し、何とか形にできるまでになっていた。

コンセプトが決定し両チームとも作品の作成にとりかかった。悪戦苦闘しながらメンバーと協力し、何とか作品を期日までに納めることが出来た。

Aチームの作品のコンセプトは「ほっぷ利用者の一年」で作品のモチーフは季節の花や果実で表現されていた。Bチームのコンセプトは「肌を感じる四季」で作品のモチーフは四季の情景等で表現されていた。

選考会でのプレゼンは両チームともコンセプト及び表現に関しては甲乙つけがたい状態であった。しかし作品の出来栄の差でAチームの作品が採用される結果となった。

筆者は今回、限られた時間の中で慣れない作業に苦労するなかお互いの出来ること出来ないことを共有し、作業を進め、作品を完成させる経験を得た。また相手のことを考えつつ自分も無理しないことの大切さを改めて感じることも出来た。これらの貴重な経験が忘れず、プログラムに取り組み復職を目指したい。



## Introduction of café planning (“Hito-iki” Tea&Coffee stand開催！)

11月26日、5ヵ月間に渡り準備を行ってきたカフェ企画『“Hito-iki” Tea&Coffee stand』が本番を迎えた。カフェ企画とは、テイクアウト限定のドリンク(コーヒー・紅茶)とお菓子を提供する職員対象の招待制カフェを実施する企画で、当院の社会復帰部門(ほっぷ一般コース、ほっぷサポートコース、つどい、JOY)を知ってもらうための院内イベントである。

今回は2回目の実施となりカフェに加え、部門ごとの紹介用ポスターの掲示やプログラムでの制作物の展示も行うこととなった。

本企画の準備は多岐に渡った。コーヒー、紅茶、お菓子の選定から、告知用ポスター、チケットのデザイン、会場レイアウト、会場装飾、展示物の作成、リハーサル等々、各部門役割分担し作業を進めていく。我々ほっぷ一般コースは「企画・運営」を任せられており、リーダー1名、サブリーダー2名の2グループに分かれ、通所者全員が携わった。

本番当日、来場した職員は、まず、ほっぷ一般コースの部屋で社会復帰部門の紹介展示を見て周り、その後、別室へ移動する。別室ではコーヒーか紅茶を選んでドリンクの注文をする。コーヒーはハンドドリップしたもの、紅茶はティーポットで茶葉から淹れたものを提供する。出来上がったドリンクを受け取った職員は、最後に出口でショップカードを受け取り会場を後にする。

43名の職員に来場していただいた中、懸念されていた来場者ピーク時の対応も滞りなく行うことができ、大きな問題もなく閉店の時間を迎えることができた。

リーダーのB氏はこう語った。「社会復帰部門の他部署との連携が一番大変であった。そんな中、サブリーダーを筆頭に全員が担当作業を責任持って遂行していただいたため無事に終えることができました。感謝の思いでいっぱいです」。

アンケート結果では、本企画の趣旨を強く出した部門紹介展示を評価いただけており、「社会復帰部門を知ることができて良かった」などおむね好評であった。また、「来てよかったと思うか?」に対しては、思う97.6%、まあ思う2.4%と高評価が得られた。

筆者はグループメンバーの一員として、準備段階ではメンバーと協力し指示された作業を、本番当日は裏方のキッチン係として携わった。普段関わることのない社会復帰部門の他部門の方と交流を持てたことや、模範的にカフェの店員としてお客様と関わることができたのは貴重な経験となった。



## The Message from GRADUATES (あんまり焦らずリラックスしようよ)

本記事では、某日C氏に実施したアンケートを紹介する。C氏はほっぷに約1年通所し卒業された方である。

Q1. あなたにとって良かったプログラムを教えてください。

A1. No. 1「カフェ企画」約4ヵ月に渡って1つの目標にメンバーと試行錯誤しながら共に進めていったプログラムだった。

No. 2「委員会活動」観葉植物の育て方を学んだりマニュアルを作ったり毎日水やりしたり充実したプログラムだった。

No. 3「なんでも相談室」自分の悩み事をメンバーに相談できる良いプログラムだった。

Q2. ほっぷ通所前と現在とで、変わったなあと自分の行動や考え、気づいたこと等あれば教えてください。

A2. ・協調性を持てるようになった。  
・人を頼ることを学んだ。  
・頑張りすぎない事を学んだ。  
・自分を守る行動がとれるようになった。

Q3. もし、休職前の自分に一言声をかけるなら、どんな言葉をかけますか?

A3. 「あんまり焦らずにリラックスしようよ。」

Q4. 最後に、残されるメンバーにメッセージをお願いします。

A4. メンバーの皆様には本当にお世話になりました。無口で緊張している私に色々話しかけてくれたり相談のつてくれたり感謝しています。一歩先に卒業しますが、皆様にも明るい未来が待っていると思います。その未来を掴むまで頑張ってください。

ほっぷで学んだ「協調性をもつ、人を頼る、頑張りすぎない、自分を守る」は、今後の社会生活の中で活かされるだろう。筆者もC氏の言葉にあるように「あんまり焦らずにリラックスしようよ。」の気持ちで頑張ろうと思う。C氏の今後の活躍をお祈りする。

## The Report of Exchange Meeting (交流会レポート)

11月16日メンバー交流会が開催された。本会は奇数月の第3土曜日に開催され、現在ほっぷに通所している現役生(以下、現役生)と復職・就職したOB/OG(以下、卒業生)が交流できる場である。

今回は卒業生15名、現役生6名と多くの方が参加され、前回同様に自己紹介、現役生お悩み相談、アイスブレイク、テーマトーク、フリートークの順に進められた。

前回から導入された現役生お悩み相談とは、現役生の悩みを卒業生へ相談するものである。今回、悩みを相談した現役生A氏に本会の感想を伺った。

「初めて参加しましたが、卒業生の方が熱心に聞いてくださいました。苦労してやるね、といった声も掛けてくださり復職後の不安が少し和らいだように感じました。無理せず自分の気持ちが落ち着くまでほっぷで頑張っていこうと思います」

筆者も何回か本会に参加しているが、卒業された方は、職場に戻って繰り返し実践されているだけに、広い視野で物事を捉えて接していただけ、毎回新たな気づきを得られる。現役生に継続的な参加をお勧めするとともに、卒業生にもより多く参加いただけると幸いである。